

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人 順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里 杵島岳ユニット		
所在地	熊本県阿蘇市赤水字無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	平成24年3月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年3月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

この地域の開業医でもある法人理事長の「この地域に恩返しをしたい」との強い思いにより、平成23年4月に開設しました。辺りを見渡せば、阿蘇の広大に連なる山々に囲まれ多くの自然が残る中で、「ゆっくり」「のんびり」とした生活を送っていただいています。ユニット型の特別養護老人ホームも併設し経験豊富なスタッフが多く配置され、今まで培ってきた専門的な知識と的確な対応で安心した暮らしの提供に努めています。開設時にスタッフでつくり上げた理念を基に、入居者はもちろんの事、ご家族の意向や要望を専門職として、またご本人やご家族の気持ちになって、いかに取りいられるかを考え実践することで日々の暮らしを満足していただけるよう支援しています。開設して2年ですが、一年一年入居者、ご家族との信頼関係を深め、地域に根付いた事業所作りに努めています。

阿蘇の五岳の『杵島岳・根子岳』をユニット名に用いたホームは、自然環境の豊かさと共に職員の経験や持ち味が発揮され、理念に沿い入居者を中心にした温かい介護が実践されている。管理者を中心にそれぞれの職員はユニット間の垣根を越え、常に全入居者や家族に目を向け関わる姿は職員と入居者の会話の様子にも表れている。食事中「午前中は見らんだったね～。心配しよったよ～！」「しっかり食べんといかんよ！」など、職員に労わりの言葉をかける入居者の表情から日常の様子が伝わってきた。また、ホーム内を案内してくれる職員の表情は明るく、自信と感謝の中で業務にあたっている姿が印象的であった。一つ屋根の下『ひのおか由紀の里』に志を高く取り組むホームであり、今後も地域の介護福祉の拠点としての活躍に期待が持たれる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前の準備段階より、スタッフと話し合いを行い、「スタッフ自身が入りたいホームとは」「ホームに求める役割は」など、より具体的な意見を出し合い理念を作り上げた。日々の生活支援の指針としている。	2年目を迎えたホームは理念について見直しを検討した結果継続する事とし、新たな一年で更に充実したケアを展開すべく職員の意志統一を図っている。理念はホーム内への掲示をはじめケア会議や業務会議で共有している。また、広報誌の中にも掲載して家族や推進会議メンバーなど地域への啓発にも努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩時などの挨拶や会話を交わすことはもちろん、地域の敬老会などへ参加、地域行事への積極的な参加をとおして、関係者や地域の方々との顔が見える関係作り、交流としている。	回覧板や推進会議からの情報により清掃活動や行事にも積極的に参加している。地区の公民館で開催された敬老会への出席や、どんどやは時間帯もホームに配慮されるなど地域の協力により入居者も懐かしい行事を楽しまれたようである。また、地区のボランティアによるマジックショーや保育園児が来訪し七夕飾りの交流も行われている。ホームは法人や行政とも連携し、認知症介護の啓発、実習生や体験学習の受け入れなど積極的に地域貢献に努めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議など通して、介護保険や事業所の役割などの説明会、認知症に関する相談受付や行政による高齢者施策の現状を話していただく機会を作っている。地元高校の福祉科実習や中高生の就業体験の受け入れを積極的に行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所のことを知ってもらい地域活動に生かしていただけるよう、会議の参加者に働きかけを行い入居者の暮らしの質の向上や地域に開かれた透明性のある運営を心掛けている。	地域に開かれた透明性の運営を心がけるホームは、運営推進会議もその重要な役割を果たすものと十分認識し参加者へも会議の意義などについて伝えている。全家族との会議を初回に実施したり、スライドやパワーポイントを使った事業所報告など工夫を凝らした進行により運営推進会議を家族や地域とのパイプ役として運営に活かしている。議事録は各ユニットに設置し開示されている。
				有意義に開催されている会議が更に参加者や家族にとってより身近に感じてもらえるよう、会議のネーミングについても職員から提案が出されており実現が期待される。

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼や入居者に関する、各制度担当者への相談、連絡などを通して連携を図っている。	行政担当者へは推進会議の案内状を手渡しし参加を依頼する他、管理者や事務局も日頃から直接役所を訪れたり、電話によりホームの現況を詳しく伝える中で有効なアドバイスを受けている。今後も積極的に協力関係を深めケアサービスに活かしていきたいと語っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為を行動指針に表記し、説明や掲示することで身体拘束を理解し、そして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ケア会議にて勉強会等行い、理解に努めている。	虐待や身体拘束に関する勉強会では担当職員が資料作りを行い、拘束に繋がる一つひとつの行為や行動を共有している。双方のユニットを自由に行き来できる環境や掃き出し窓も入居者にとって圧迫感のない生活環境となっている。また、外出希望者へも職員が連携しながらホーム敷地を散歩したり、建物内を歩く事で気分転換を図り安心して過ごしてもらうよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待となる行為を行動指針に明記し、掲示することで虐待防止に努めている。また、法令で定めてある行為のみでなく、言葉使いや態度など些細な事でも虐待につながっていくことを共通理解としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者がおられ、その方の日頃の状況などについて、財産管理のみならず、身上監護の観点からも随時、報告、相談を行っている。成年後見制度の研修会にも参加し、学ぶ機会としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に事業所の体制や医療連携、看取りについての方針を説明している。また介護報酬改定時には、説明会や相談を受け付ける機会を設けており、随時説明できる体制を取っている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時はもちろんのこと、カンファレンス参加時での直接的な意見聴取やアンケート形式により意見や要望を表せる機会としている。意見箱の設置や相談受け付け機関、第三者委員の紹介などは重要事項説明書に明記している。	日常生活の中で入居者や家族が意見や提案を出しやすい雰囲気や環境に努めている。本人・家族ともに直接要望を出されることが多く、外泊への希望や個々に応じた衣類調節など出された要望は職員で共有を図り対応している。また、苦情・要望・相談ノートを活用し、職員は細かい事項でも対応可能な点については早急に改善を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているケア会議や業務改善会議については、スタッフからの意見を聞き取る機会として捉えており、前向きな意見や提案は、まずやってみることを基本としている。	定期的開催しているケア会議をはじめ管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り、意見や提案を確認している。職員から出される様々な提案やアイデアは、入居者の楽しみや満足に繋がる取り組みとして実践されている。入居者が過ごしやすく、職員が働きやすい環境をを一体となって作ることが重要として、管理者は法人代表者とも連携を取りながら経験や持ち味を発揮できる状況や自信を持って働ける職場環境が作られており、このことは職員の聞き取りからも確認された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の経験や働き方に応じて役割を分担し、やりがいのある、働きやすい職場環境作りに努めている。スタッフの心身の健康や安定が質の良いケアに繋がることから、落ち着いた職場環境となるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験や能力に応じた業務や認知症実践者・リーダー・管理者研修への参加をはじめ、新人研修など、法人内外研修へ各スタッフが積極的に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な地区連絡会の勉強会参加や法人内のグループホームと日帰り温泉旅行を計画し、職員はもとより入居者同士の交流にも努めたり、食事会などを通し、意見交換や相談など行なう事でサービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴することを基本に思いや望むことの把握に努めながら、ゆっくり時間をかけ信頼関係構築に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安や要望、本人から得られない情報を十分に聞くと共に、事業所の役割や考えを知っていただくことが信頼関係構築の第一歩であると考えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、入居以前に利用していた事業所・医療機関からの情報を踏まえ、状況を把握した上で他のサービス事業所を紹介するなど必要としているサービスが提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で家事をしたり行事を一緒に楽しんだり、生活を共にする一員として「何事も一緒にする」ことを基本として関係構築に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人より家族の面会依頼などある時には働きかけを行ったり、外出行事の際には、家族にも参加案内をしている。その他、本人希望や必要に応じてショッピングや病院受診の付き添い依頼も行い、入居者が落ち着いた生活が送れるように協力依頼している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の関係性を大事にし、継続して関係が保たれるよう支援している。また併設特養に顔馴染み方もおられ、日常的な交流が図られている。	家族の協力を得ながら自宅への外泊や帰省、祝い事・法事・墓参など親類・知人の集まりへの参加を支援している。また、知人との絵手紙交流を楽しまれている方もある。ホームは入居者の特技や趣味を継続して支援することが楽しみや生きがいにも繋がる事から、着付けを得意とされる方がひな祭り会で着付けを担当したり、得意の方が主となり昔ながらの食作り(切干し大根・白菜漬け・干し柿・フキ料理)に取り組むなど多くの馴染みの支援が展開されている。

自己	外部	項目		外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合うもの同士お互いの部屋を尋ねられ会話を楽しまれたり、相談ごとがあればアドバイスなどされることもある。入居者同士の関係性を把握し、協力し合える関係づくりとユニット間交流支援など、新しい関係構築にも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も法人内の施設へ入居されていることもあり、面会など行い継続的に関係が保てるようにしている。相談なども随時受け付けられる体制を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から本人の気持ちや思いを聞いて、意向に添った対応に心掛けている。意思疎通が難しい方についても、行動や表情を日頃から観察することで、思いをくみ取っている。	入居者との日々の関わりの中で思いや意向を確認し、困難な方は行動や表情・しぐさから推察したり、担当職員を中心に双方のユニット全職員からの情報をもとに、本人本位に検討している。管理者は一人ひとりの思いに応えるために職員間の連携を重視したホーム運営に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入居以前に利用していたサービス提供事業所や医療機関からの情報を踏まえ、本人の状態の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の健康維持と、残存機能が維持出来るように、その日の体調など各スタッフが把握・共有し、できるだけ本人のペースに添った暮らしが出来るような対応に努めている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書作成の際には本人の意見や意向を聞き取り、ご家族へは、計画書作成に伴うアンケートを送付し、意見や意向を伺っている。また、家族に会議への参加呼びかけも行き、担当職員や計画作成担当者、その他の従事者と協同で作成している。	介護計画作成担当者は、本人の意向やアンケート・担当者会議・来訪時などに確認された家族の意見・要望、入居者の担当職員の意見を活かしたプラン作成に努めている。また、両ユニットの垣根を超えた交流により多くの職員の気づきや提案が活かされていることも特徴であり、状況に応じたプランは丁寧な説明を心がけた承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は時系列を基本に作成している。また、サービス計画書のサービス内容に関する事についても記入し、計画書のモニタリングや見直し時にいかしている。各種申し送りノートも活用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険のみならず、各種申請書の作成や手続きの支援、家族が遠方の場合、身の回りの必要物品準備、入院時の洗濯や面会を行っている。また、必要に応じて専門医療機関への送迎も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元保育園や地域ボランティア団体の慰問や、地区の敬老会、どんどやなど、地域行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診時に状態報告し、診察、内服処方してもらっている。随時相談、指示受けが出来、他医療機関の紹介をしていただくなど、良好な関係が築けている。	これまでのかかりつけ医の受診を支援するとし、家族からの要望があれば協力医療機関の説明を行っている。協力医を主治医とする方の定期的や必要に応じた往診・急変時の対応は本人・家族・職員にとっても安心に繋がっている。また、他科受診も基本的にホームで送迎を行っている。家族による受診も行われており、入居者の健康状態は受診結果を含め双方が情報を共有し健康管理に努めている。	



自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や入浴時の身体確認、日々の状態観察などで特変あるときには、看護師への相談・状態報告を基本としている。必要に応じ、病院受診行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供し、また入院中の情報や状態把握のため度々面会に出向いている。退院後の対応などで、電話連絡し相談も行っている。病院関係者との交流の場として、全体会議や院内勉強会・院内研究発表会に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体機能の低下や長期療養などでグループホームでの生活が困難になった時等の対応など、家族へ説明などし今後のことで話し合いも行っている。	看取りに関する指針を作成し、入居時や随時説明を行っている。重度化や終末期支援が必要になった場合、家族がどこまで協力ができるかなどを話し合う事とし、長期入院や苦痛をとまうなど医療行為が継続して必要となれば退去の目安としている。現在は関連医療機関や法人施設と連携を図り、入居者・家族の思いを確認しながらホームに出来る対応に努めている。	今後は終末期支援の有無にかかわらず、共に過ごす入居者に最良の日々を支援できるよう研修会の開催について検討いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外の勉強会への参加や緊急時の対応マニュアルを作成し緊急時に備えている。新人職員などにも入職後、個別に勉強会を行い、落ち着いた対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施や、地域の消防団長の視察により、グループホームの特性や入居者の状況など理解してもらっていることで迅速な対応に期待ができ、災害時には協力体制が築けている。	今年度は自主訓練や消防署も参加した併設事業所との合同訓練(夜間想定)を実施している。また、地域消防団長にホーム内を見てもらいアドバイスを受けて、防火設備点検、備蓄庫の品を実際調理し有事に備える取り組みが行われている。昨夏の阿蘇地域を襲った水害では、水が入り込む被害を受けたが法人他事業所より早急に応援体制が取られている。	職員より避難ベルが聞こえない方への配慮の必要性が聞かれるなど防災に対する意識は高く、管理者の語る地域との連携と共に、今後も火災・自然災害への取り組みが強化されいくことに期待したい。



自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも敬意のある接し方、言葉使いを心がけている。排泄誘導時のさりげない声掛け、訪室する際のノックや声掛けは基本としており、トイレ使用中の札やポータブル使用時の目隠しなど人格・プライバシーに配慮している。	入居者を敬い親しさの中にも失礼の無い対応で臨むことは、会議やミーティングでも共有が図られ実践に努めている。呼称は苗字にさん付けを基本とし、目線での対応や入居者のペースに合わせた誘導を行っている。入浴時の同姓介助についても希望を確認し取り組んでいる。写真の掲載など個人情報については家族の了解の元使用し、重要書類は事務所で保管し、職員にも守秘義務を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容的な対応を心がけ、思いや希望を表しやすいように支援し、個別対応に努めている。又、日常生活における行為一つひとつにおいて自己決定できる機会を多く設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの行動を把握し、生活のリズムを整えつつ入居者の方のペースに合わせた支援を行っている。体調や様子を見て、ご本人の希望を取り入れながら、その人らしく過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの好みや思いを踏まえ、希望に添った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、食事内容、味付け、それぞれに合わせた食事を検討している。食事の準備、食器洗いなど、職員と一緒に積極的に行われている。又、入居者の希望を取り入れながら、作る物を決めて入居者指導のもと調理を実施し、皆で食べて喜ばれている。テーブルでの席も関係性に配慮し、楽しく食べていただけるよう支援している。	法人内栄養部による食事提供が行われているが、年二回の聞き取りによる嗜好調査を反映させる他、個々に応じた食形態の支援に努めている。時には地元の料理(団子汁・鶏飯・地きゅうり漬けなど)をはじめ、おやつ(アンパン・スイートポテト・ぼたもち等)作りを一緒に行い、食への関わりを持つ事で楽しむ食事支援を実践している。一つひとつの食への関わりに職員が細やかな準備を行い取り組んでいることは、聞き取りや記録写真からも確認された。訪問当日も職員は同じ料理を食べ、会話も弾み殆どの方が完食するなど和やかな時間であった。	

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時の体調や、希望などに合わせた食事形態にて対応し提供している。食事摂取量の少ない方は、ハーフ食、補助食品を検討。水分については、暑い季節には身体への吸収率を考慮し、電解質の入った飲み物を提供。又、水分の摂取量が少ない方は、好みの飲み物を提供し、夜間は水筒を準備し水分確保に努めている。必要に応じて食事量、水分量チェック、記録を行いながら把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し一人ひとりに応じた歯ブラシなど使用している。自力での口腔ケアが不十分な方は、最後に職員が確認し、仕上げを行い清潔保持に努めている。又、週1回の訪問歯科診療による、診察や歯科衛生士による口腔内の衛生指導を受け適切な口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき、その人にあった排泄時間を把握し、トイレの声掛けや誘導を行っており、できるだけオムツを使用しない支援に努めている。	自立の方の継続やチェック表(必要な方のみ)を使用し、誘導・声かけにより基本的に日中はトイレでの排泄支援に努めている。夜間は安眠の為ポータブルを使用される方や、オムツを使っても訴えに応じポータブルへの誘導など個々に応じ支援している。ポータブルはその都度洗浄し、天気の日には日光消毒により居室にも臭を残さず、気持ちよく使用できるようにしている。	トイレ内の排泄用品についてはクロスをかけるなど配慮することで、全入居者が気持ちよく利用できると思われる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表をつけることで、排便時間やパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。個別に、下剤の調整や食物繊維パウダーの摂取、排泄を促す腹部マッサージ、水分補給に努めている。又、強度便秘の方については随時主治医に相談している。		

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好まれる時間や入居者の関係性に配慮して、実施している。夜間入浴の取り組みや、同姓での入浴介助も行っている。入浴拒否が多い方は、入浴前にその人にあわせた声掛けや環境作りを行っている。	それぞれのユニットに設置された個浴と機械浴を状況に応じ使い分けながら、週二回以上の入浴支援に努めている。また、夏場は回数を増やしたり失禁時はその都度対応し清潔保持に努めている。拒否の方へは職員のチームワークで声かけや誘導を工夫し、スムーズに入ってもらえるように取り組んでいる。季節のゆず湯や一番風呂希望にも対応しながら楽しめる入浴支援に繋げている。	浴室内に窓がないこともあり開放感とといった点では少々不足すると思われるが、今後も入浴の雰囲気盛り上げる浴室前への張り紙など職員のアイデアにより更に楽しめる入浴支援に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその日の状態により、臥床をすすめ休息の機会としている。快適な室温調整はもとより冬場は湯たんぽやアンカを使用したり、保温性の良いソックスを着用するなどして、安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルや申し送りノートにて、スタッフ全員が把握している。新たに薬が処方されたり、変更などある時には副作用など調べ掲示している。頓服として処方された薬に関しては、一覧表を作成しており症状にあわせた、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やそれまでの役割、趣味、身体機能を考慮し、家事仕事や散歩などで、生きがいを感じ、月の行事や季節ごとの催し物を計画し楽しみや、喜びを感じることができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や季節を感じることを目的とした行事を計画し実施している。家族への働きかけを行い自宅や買い物・外食、行きつけの美容室に外出したりされている。近隣への散歩は日常的に行っている。	敷地内を散歩し四季の変化を感じ取ったり、車を使いバラ園見物やぶどう刈り、同法人系列のグループホームと一緒に日帰り温泉に出かけるなど、多くの外出支援を企画実践している。家族へも広報誌の中で行事への参加を呼びかけ、猿回し劇場に同行されたり、法事や墓参、日帰り帰省・排泄の連携による外泊など普段から家族の協力による外出が行われている。	今後も地域・家族の協力を得ながら入居者の外出が継続して支援されることに期待したい。

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力や希望に応じて所持し、自己管理が困難な方については、貴重品入れに鍵を付けたり、おこずかい帳をつけたりすることで金銭管理の支援を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には、いつでも電話できるような支援し、内容によっては自室でゆっくり会話できるように配慮している。知人からの絵手紙や年賀状等のやり取りの支援を行っている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激になるような装飾は避け、季節を感じることで花や置物を飾っている。リビングのソファでは、好みの場所、愛用のクッションを使用し、落ち着いて、くつろげる環境作り心掛けています。	季節の花や観葉植物が置かれたリビングをはじめ、共用空間は明るく使い勝手の良さに配慮した作りとなっている。ユニット合同で誕生会などのイベントを行う事も多く、状況に応じたテーブル配置により楽しめる空間作りを行っている。また、職員の発する声も、メリハリの中にも刺激にならないよう職員間で対応を心がけている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に人間関係や相性など考慮した、ソファの配置を行っており、ゆっくり過ごしてもらえる雰囲気作りを心掛けています。余暇活動や物品作製などで気の合うもの同士で過ごせる空間作りを行っている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々によって差はあるが、入居者の方が自分の住まいだと思えるよう、自宅で使用されていた家具類を持ち込んだり、好きな絵やポスター、家族の写真や絵手紙など飾っている。	ベッド・タンスが準備された部屋は、入居時に居室環境について説明を行い、時計・写真・履きなれた靴などの他、面会時に家族自身も寛げるようソファを持ち込まれている方もある。部屋のポータブルトイレは、入口から見えないよう手作りの衝立を設置するなどプライバシーにも配慮した取り組みである。どの部屋も明るく見慣れた田畑や山々を眺め、入居者にとって安心して過ごせる空間である。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室には手すりを設置し、全フロアバリアフリーで、車いす、歩行器でも安全な移動ができる空間づくりや配慮をしている。	

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人 順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里 根子岳ユニット		
所在地	熊本県阿蘇市赤水字無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	平成24年3月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

この地域の開業医でもある法人理事長の「この地域に恩返しをしたい」との強い思いにより、平成23年4月に開設しました。辺りを見渡せば、阿蘇の広大に連なる山々に囲まれ多くの自然が残る中で、「ゆっくり」「のんびり」とした生活を送っていただいています。ユニット型の特別養護老人ホームも併設し経験豊富なスタッフが多く配置され、今まで培ってきた専門的な知識と的確な対応で安心した暮らしの提供に努めています。開設時にスタッフでつくり上げた理念を基に、入居者はもちろんの事、ご家族の意向や要望を専門職として、またご本人やご家族の気持ちになって、いかに取りいれられるかを考え実践することで日々の暮らしを満足していただけるよう支援しています。開設して2年ですが、一年一年入居者、ご家族との信頼関係を深め、地域に根付いた事業所作りに努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成24年3月19日		



**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前の準備段階より、スタッフと話し合いを行い、「スタッフ自身が入りたいホームとは」「ホームに求める役割は」など、より具体的な意見を出し合い理念を作り上げた。日々の生活支援の指針としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩時などの挨拶や会話を交わすことはもちろん、地域の敬老会などへ参加、地域行事への積極的な参加をとおして、関係者や地域の方々との顔が見える関係作り、交流としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議など通して、介護保険や事業所の役割などの説明会、認知症に関する相談受付や行政による高齢者施策の現状を話していただく機会を作っている。地元高校の福祉科実習や中高生の就業体験の受け入れを積極的に行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所のことを知ってもらい地域活動に生かしていただけるよう、会議の参加者に働きかけを行い入居者の暮らしの質の向上や地域に開かれた透明性のある運営を心掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼や入居者に関する、各制度担当者への相談、連絡などを通して連携を図っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為を行動指針に表記し、説明や掲示することで身体拘束を理解し、そして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ケア会議にて勉強会等行い、理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待となる行為を行動指針に明記し、掲示することで虐待防止に努めている。また、法令で定めてある行為のみでなく、言葉使いや態度など些細な事でも虐待につながっていくことを共通理解としている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者がおられ、その方の日頃の状況などについて、財産管理のみならず、身上監護の観点からも随時、報告、相談を行っている。成年後見制度の研修会にも参加し、学ぶ機会としている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に事業所の体制や医療連携、看取りについての方針を説明している。また介護報酬改定時には、説明会や相談を受け付ける機会を設けており、随時説明できる体制を取っている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時はもちろんのこと、カンファレンス参加時での直接的な意見聴取やアンケート形式により意見や要望を表せる機会としている。意見箱の設置や相談受付機関、第三者委員の紹介などは重要事項説明書に明記している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているケア会議や業務改善会議については、スタッフからの意見を聞き取る機会として捉えており、前向きな意見や提案は、まずやってみることを基本としている。	



自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の経験や働き方に応じて役割を分担し、やりがいのある、働きやすい職場環境作りに努めている。スタッフの心身の健康や安定が質の良いケアに繋がることから、落ち着いた職場環境となるよう心掛けている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験や能力に応じた業務や認知症実践者・リーダー・管理者研修への参加をはじめ、新人研修など、法人内外研修へ各スタッフが積極的に参加できるように配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な地区連絡会の勉強会参加や法人内のグループホームと日帰り温泉旅行を計画し、職員はもとより入居者同士の交流にも努めたり、食事会などを通し、意見交換や相談など行なう事でサービスの質向上に努めている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴することを基本に思いや望むことの把握に努めながら、ゆっくり時間をかけ信頼関係構築に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安や要望、本人から得られない情報を十分に聞くと共に、事業所の役割や考えを知っていただくことが信頼関係構築の第一歩であると考えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、入居以前に利用していた事業所・医療機関からの情報を踏まえ、状況を把握した上で他のサービス事業所を紹介するなど必要としているサービスが提供できるよう努めている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で家事をしたり行事を一緒に楽しんだり、生活を共にする一員として「何事も一緒にする」ことを基本として関係構築に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人より家族の面会依頼などある時には働きかけを行ったり、外出行事の際には、家族にも参加案内をしている。その他、本人希望や必要に応じてショッピングや病院受診の付き添い依頼も行い、入居者が落ち着いた生活が送れるように協力依頼している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の関係性を大事にし、継続して関係が保たれるよう支援している。また併設特養に顔馴染み方もおられ、日常的な交流が図れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合うもの同士お互いの部屋を尋ねられ会話を楽しまれたり、相談ごとがあればアドバイスなどされることもある。入居者同士の関係性を把握し、協力し合える関係づくりとユニット間交流支援など、新しい関係構築にも努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も法人内の施設へ入居されていることもあり、面会など行い継続的に関係が保てるようにしている。相談なども随時受け付けられる体制を整えている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から本人の気持ちや思いを聞いて、意向に添った対応に心掛けている。意思疎通が難しい方についても、行動や表情を日頃から観察することで、思いをくみ取っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入居以前に利用していたサービス提供事業所や医療機関からの情報を踏まえ、本人の状態の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の健康維持と、残存機能が維持出来るように、その日の体調など各スタッフが把握・共有し、できるだけ本人のペースに添った暮らしが出来るような対応に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書作成の際には本人の意見や意向を聞き取り、ご家族へは、計画書作成に伴うアンケートを送付し、意見や意向を伺っている。また、家族に会議への参加呼びかけも行き、担当職員や計画作成担当者、その他の従事者と協同で作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は時系列を基本に作成している。また、サービス計画書のサービス内容に関することについても記入し、計画書のモニタリングや見直し時にいかしている。各種申し送りノートも活用し、情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険のみならず、各種申請書の作成や手続きの支援、家族が遠方の場合、身の回りの必要物品準備、入院時の洗濯や面会を行っている。また、必要に応じて専門医療機関への送迎も行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元保育園や地域ボランティア団体の慰問や、地区の敬老会、どんどやなど、地域行事に参加している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診時に状態報告し、診察、内服処方してもらっている。随時相談、指示受けが出来、他医療機関の紹介をしていただくなど、良好な関係が築けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や入浴時の身体確認、日々の状態観察などで特変あるときには、看護師への相談・状態報告を基本としている。必要に応じ、病院受診行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供し、また入院中の情報や状態把握のため度々面会に出向いている。退院後の対応などで、電話連絡し相談も行っている。病院関係者との交流の場として、全体会議や院内勉強会・院内研究発表会に参加している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体機能の低下や長期療養などでグループホームでの生活が困難になった時等の対応など、家族へ説明などし今後のことで話し合いも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外の勉強会への参加や緊急時の対応マニュアルを作成し緊急時に備えている。新人職員などにも入職後、個別に勉強会を行い、落ち着いた対応ができるように努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施や、地域の消防団長の視察により、グループホームの特性や入居者の状況など理解してもらっていることで迅速な対応に期待ができ、災害時には協力体制が築けている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも敬意のある接し方、言葉使いを心がけている。排泄誘導時のさりげない声掛け、訪室する際のノックや声掛けは基本としており、トイレ使用中の札やポータブル使用時の目隠しなど人格・プライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容的な対応を心がけ、思いや希望を表しやすいように支援し、個別対応に努めている。又、日常生活における行為一つひとつにおいて自己決定できる機会を多く設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの行動を把握し、生活のリズムを整えつつ入居者の方のペースに合わせた支援を行っている。体調や様子を見て、ご本人の希望を取り入れながら、その人らしく過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの好みや思いを踏まえ、希望に添った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、食事内容、味付け、それぞれに合わせた食事量を検討している。食事の準備、食器洗いなど、職員と一緒に積極的に行われている。又、入居者の希望を取り入れながら、作る物を決めて入居者指導のもと調理を実施し、皆で食べて喜ばれている。テーブルでの席も関係性に配慮し、楽しく食べていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時の体調や、希望などに合わせた食事形態にて対応し提供している。食事摂取量の少ない方は、ハーフ食、補助食品を検討。水分については、暑い季節には身体への吸収率を考慮し、電解質の入った飲み物を提供。又、水分の摂取量が少ない方は、好みの飲み物を提供し、夜間は水筒を準備し水分確保に努めている。必要に応じて食事量、水分量チェック、記録を行いながら把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し一人ひとりに応じた歯ブラシなど使用している。自力での口腔ケアが不十分な方は、最後に職員が確認し、仕上げを行い清潔保持に努めている。又、週1回の訪問歯科診療による、診察や歯科衛生士による口腔内の衛生指導を受け適切な口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき、その人にあった排泄時間を把握し、トイレの声掛けや誘導を行っており、できるだけオムツを使用しない支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表をつけることで、排便時間やパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。個別に、下剤の調整や食物繊維パウダーの摂取、排泄を促す腹部マッサージ、水分補給に努めている。又、強度便秘の方については随時主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好まれる時間や入居者の関係性に配慮して、実施している。夜間入浴の取り組みや、同姓での入浴介助も行っている。入浴拒否が多い方は、入浴前にその人にあわせた声掛けや環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその日の状態により、臥床をすすめ休息の機会としている。快適な室温調整はもとより冬場は湯たんぽやアンカを使用したり、保温性の良いソックスを着用するなどして、安眠につなげている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルや申し送りノートにて、スタッフ全員が把握している。新たに薬が処方されたり、変更などある時には副作用など調べ掲示している。頓服として処方された薬に関しては、一覧表を作成しており症状にあわせた、服薬支援を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やそれまでの役割、趣味、身体機能を考慮し、家事仕事や散歩などで、生きがいを感じ、月の行事や季節ごとの催し物を計画し楽しみや、喜びを感じることができるよう支援している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者の希望や季節を感じることを目的とした行事を計画し実施している。家族への働きかけを行い自宅や買い物・外食、行きつけの美容室に外出したりされている。近隣への散歩は日常的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力や希望に応じて所持し、自己管理が困難な方については、貴重品入れに鍵を付けたり、おこずかい帳をつけたりすることで金銭管理の支援を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には、いつでも電話できるような支援し、内容によっては自室でゆっくり会話できるように配慮している。知人からの絵手紙や年賀状等のやり取りの支援を行っている。	



自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激になるような装飾は避け、季節を感じることのできる花や置物を飾っている。リビングのソファでは、好みの場所、愛用のクッションを使用し、落ち着いて、くつろげる環境作りに心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に人間関係や相性など考慮した、ソファの配置を行っており、ゆっくり過ごしてもらえる雰囲気作りを心掛けている。余暇活動や物品作製などで気の合うもの同士で過ごせる空間作りを行っている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々によって差はあるが、入居者の方が自分の住まいだと思えるよう、自宅で使用されていた家具類を持ち込んだり、好きな絵やポスター、家族の写真や絵手紙など飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室には手すりを設置し、全フロアバリアフリーで、車いす、歩行器でも安全な移動ができる空間づくりや配慮をしている。	